

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370042

研究課題名(和文) 経学の歴史的展開に関する総合的研究

研究課題名(英文) Classical Studies: A New Perspective of Its Historical Development

研究代表者

井澤 耕一 (IZAWA, KOICHI)

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：00455908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は以下の三つに大別できる。第一に、湖南師範大学図書館に赴いての実見によって、当図書館蔵の皮錫瑞(1850 - 1908)『経学歴史』手稿本全二巻全てをを解読した。さらにその成果を、2015年、日本中国学会第67回大会(國學院大學)において発表した。第二に、手稿本および戦後の経学研究を利用しつつ、『経学歴史』の新訳注の作成を行い、二十一世紀における、新たな経学史研究の方法を提示した。第三に、皮錫瑞と同時代の古文経学者、劉師培(1884 - 1919)著の『経学教科書』訳注の作成を日本で初めて完成させ、皮氏の歴史観とは異なった「経学史」を示した。

研究成果の概要(英文)：The results of this research project are threefold. First, a new interpretation of Pi Xi-rui's "A History of Classical Studies" has been proposed on the basis of our own close reading of all its hand-written drafts in the Hunan Normal University Library. This proposal was presented at the 67th Conference of the Sinological Society of Japan held at Kokugakuin University. Second, a new commentary on Pi Xi-rui's "A History of Classical Studies" has been completed through making full use of new interpretations of those drafts and the fruits of the research into classical studies in the post-war period. The completion of this new commentary also implies the rise of a new way of research into classical studies in the 21st century. Third, "A commentary on Liu Shi-pei's Textbook of Classical Studies" has been published which is first commentary in Japan. This commentary provides a detailed description of Liu Shi-pei's interpretation of classical studies that differs from that of Pi Xi-rui.

研究分野：人文学

キーワード： 儒教 経学史 今文経学 古文経学 清末 民国初 皮錫瑞 劉師培

1. 研究開始当初の背景

ある対象を総合的・系統的に理解しようとする場合、それを成立から現在に至るまで歴史的に通観するというのとは一つの有効的手段である。

日本で著された経学通史としては、本田成之『支那経学史論』(弘文堂、1926)、瀧熊之助『支那経学史概説』(大明堂書店、1934)および諸橋轍次『經學研究序説』(目黒書店、1936)が主なものとなる。特に本田氏の『支那経学史論』は、日本はおろか中国でも編まれたことが無かった初の経学通史として、特筆すべきものであり、当時の最新の研究成果と本田氏個人の視点が見事に融合・投影され、今見ても啓蒙される良書である。

しかし、上に挙げた通史は、刊行からすでに四分の三世紀以上が経過し、そこに記述された内容は、当然のことながら戦後の研究成果は反映されていない。

もちろん戦後において経学史が研究されていなかったわけではない。たとえば近年に絞っても、野間文史氏は、五経正義、十三経注疏の詳細な解説を通じて、いわゆる「注疏の学」の成立史を明らかにしている(『五経正義の研究 - その成立と展開』研文出版、1998年、『十三経注疏の研究—その語法と傳承の形』研文出版、2005)。また古勝隆一氏は従来あまり注視されてこなかった六朝期の経学史を、六朝という時代の独自性に留意しつつ見事に論じている(『中國中古の學術』研文出版、2006)。しかし以上の先行研究は、個々に優れたものではあるが、いわゆる経学の成立からその完成、更に終焉に至るまでを俯瞰した通史は新たに生み出されることはなかった。その原因としては、戦後の研究体制が、時代ごとに細分化され、相互に連動すること無く、別個に行われてきたことに起因すると思われる。

一方中国では、近年「国学」再考の波に乗って、経学に関する研究が陸続と発表され、従来とは違った新たな視点からの検証のみならず、儒教史そのものの再構築が図られている。その成果として清華大学・彭林氏主編『中国経学』2016年現在第14輯まで刊行、広西師範大学出版社、姜広輝『中国経学思想史』全4巻(中国社会科学出版社、2003~2010)、湯一介他『中国儒学史』全9巻(2011)などが挙げられよう。

そもそも儒教史研究を進めていくにあたり、経学史を系統的に理解していることは必要不可欠なことである。しかし戦後、日本において学術的に優れている経学通史が刊行されていないということは、儒教思想研究に携わる者にとって大変憂慮すべきことである。こうした現状に鑑み、平易かつ最新の研究成果を取り入れた経学史の提供は、急務の課題である。こうしたことから、経学の成立に始まりその終焉までに至る経学の歴史的展開に関する系統的かつ総合的な研究が必

要であると考えるにいたった。

2. 研究の目的

本研究では、従前の経学史に対して実証的・批判的に検証し、その問題点を明らかにした上で新たな経学史の構想を提供することを主要な目標とした。そして以下の3点を期間内に達成すべき項目として挙げた。

(1) 先行する各経学史や関連する研究成果の分析・検討を行う。本研究では、清末の経学者である皮錫瑞(1850 - 1908)『経学歴史』および劉師培(1884 - 1919)『経学教科書』を訳出し、それに新注を付することを旨とする。『経学歴史』は、経学史の入門書として、日本でも広く読まれた書である。それには周予同による注釈(1928年初刊)があり、現在でも中華書局より重版されている。しかしこの注釈は、記述に誤りや偏りが少なからず見られる。また『経学歴史』自体、「今文経学」の立場から撰じた「経学史」であり、今回それとは逆の「古文経学」に属する『経学教科書』を合わせて訳出しその異同を分析することで、その偏りを是正できよう。

(2) 湖南省長沙市の湖南師範大学図書館を訪問し、そこに所蔵されている従来知られていなかった『経学歴史』「手稿本」を調査することにより、書誌学はむろん、思想史学においても新たな発見が見いだせると思われる。

(3) その他、研究期間中、研究代表者および研究分担者は、最新の研究に基づき、注釈の形で経学史を詳細に分析し新たな見地を示していく。こうした作業は、おのずと今まで看過されてきた経学史研究に内在する問題点を浮かび上がらせることになる。またこれは定期的に開く研究例会における重要な論点にもなる。又そこで行われた議論が訳注に還元されることで、その作業は新たな経学史構築の可能性に向けて、非常に有意義なものとなると考えられる。

3. 研究の方法

2で挙げた目的を達成するため、研究代表者および分担者は以下3つの方法を用いて、研究を推進した。

(1) 各分担に応じて皮錫瑞『経学歴史』および『経学教科書』の訳注を作成し、これに合わせて訳出の際に出た問題点や課題を解決するための研究例会を2カ月に一度開催した。その際それぞれ問題となる具体的な事象について検討を重ね、その結果を反映させて、訳注草稿の訂正を行った。

(2) 湖南省長沙市を訪問し、中国の皮錫瑞研究では第一人者の湖南大学教授呉仰湘氏(2015年中華書局から『皮錫瑞全集』を出版)と、訳注作成に関する意見交換を行った。また湖南師範大学図書館に所蔵されている『経学歴史』手稿本を2年かけて閲覧・筆写

し、『経学歴史』分析の重要な根拠とした。
(3) 訳注作成及び手稿本の筆写作業の中で明らかになった特に重大な新知見については、研究例会で議論することは無論、研究代表者および分担者はそれぞれ、学会や学術雑誌などを通して、その成果を発表した。

4. 研究成果

(1) 平成 25 年度の研究成果

研究会の開催と『経学歴史』新訳注の作成
当該年度においては、5月19日、7月27・28日、8月30・31日、2月21・22日の4回、関西大学総合図書館にて研究会を開催し、『経学歴史』経学開闢時代～経学昌明時代の新訳注稿を作成した。

『経学教科書』訳注の作成

研究代表者は、上記書の清代部分の訳注を試し、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』第15・16号にて発表した。

湖南における文献調査

11月19日から15日にかけて、中国湖南省長沙市を訪問し、湖南大学教授呉仰湘氏と、訳注に関する意見交換を行った。また湖南師範大学図書館所蔵の『経学歴史』手稿本上・下巻を閲覧・筆写して、上・下巻とも約半分を写し終えた。

(2) 平成 26 年度の研究成果

研究会の開催と『経学歴史』新訳注の作成
当該年度においては、5月10・11日、8月7・8日、3月5・6日の3回、関西大学総合図書館にて研究会を開催し、『経学歴史』経学極盛時代・経学中衰時代の新訳注稿を作成した。

『経学教科書』訳注の作成

研究代表者は、上記書の清代部分の訳注を完成させ、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』第17号にて発表した。これをもって『経学教科書』訳注が本邦において初めて完成した。

湖南における文献調査

12月20日から27日にかけて、中国湖南省長沙市を訪問し、湖南大学教授呉仰湘氏と、訳注に関する意見交換を行った。また湖南師範大学図書館所蔵の『経学歴史』手稿本上・下巻全てを閲覧・筆写し終えた。

(3) 平成 27 年度の研究成果

研究会の開催と『経学歴史』新訳注の作成
当該年度においては、5月9・10日、3月10・11日の2回、関西大学総合図書館及び茨城大学人文学部にて研究会を開催し、『経学歴史』経学分立時代・経学統一時代の新訳注稿を作成した。

劉師培研究

研究代表者は、『経学教科書』の著者である、劉師培の生涯及びその著述活動を明らかにするため、彼と同時代の錢玄同の評論を訳出し、分析を行った。それを『茨城大学人文学

部紀要 人文コミュニケーション学科論集』第19・20号にて発表した。

湖南における文献調査の成果発表

10月11日、國學院大學で開催された日本中国学会第67回大会において、『経学歴史』手稿本調査結果を、研究代表者、分担者が共同で発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

1. 井澤耕一、「錢玄同『劉申叔先生遺書』序(下)全訳 : 同時代人からみた劉師培の事績と著述」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』、第20号、197 - 202、2016、査読無
<http://hdl.handle.net/10109/12774>
2. 橋本昭典、「経学史論述と日語翻訳的有關問題 : 以『尚書』今古文言說為中心」、『國際漢学研究通訊』第11期、96 - 106、2016、査読無
3. 井澤耕一、「錢玄同「左倉年表」」、「左倉著述繫年」、『劉申叔先生遺書』序(上)全訳 : 同時代人からみた劉師培の事績と著述」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』、第19号、163 - 170、2015、査読無
<http://hdl.handle.net/10109/12709>
4. 橋本昭典、「戦後日本の『論語』言説 : 孔子評価と解釈の間」、『現代日本と台湾における『論語』研究の現状 國際學術研討會 會議論文集』、1 - 16、2015、査読無
5. 佐々木寛司、井澤耕一(他12名、4番目)、「「経学」の終焉 : 経学史編纂から見た「革命」と「維新」」、岩田書店、『近代日本の地域史的展開 : 政治・文化・経済』、85 - 107、2014、査読無
6. 井澤耕一、「劉師培『経学教科書』訳注(十四)」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』、第17号、167 - 174、2014、査読無
<http://hdl.handle.net/10109/10362>
7. 井澤耕一、「劉師培『経学教科書』訳注(十三)」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』、第16号、227 - 232、2014、査読無
<http://hdl.handle.net/10109/8725>
8. 井澤耕一、「劉師培『経学教科書』訳注(十二)」、『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』、第15号、239 - 244、2013、査読無
<http://hdl.handle.net/10109/4589>
9. 橋本昭典、「叙述形式から見る典故と比喩 : はかない「泡沫」はどこから」、『奈良教育大学国文』、第36号、11 - 22、2013、査読無

〔学会発表〕(計5件)

1. 井澤耕一、橋本昭典、「『経学歴史』手稿本からみる皮錫瑞の経学観」、日本中国学会第67回大会、2015.10.11、國學院大學
2. 橋本昭典、「日本人にとって『論語』とは何か：戦後思想史の一断面」、東アジア巫祝文化研究会・柳葉会合同発表会、2015.9.23、奈良教育大学
3. 橋本昭典、「戦後日本の『論語』言説：孔子評価と解釈の間」、現代日本と台湾における『論語』研究の現状 国際学術研討会、2015.6.14、台湾大学日本研究中心(台湾)
4. 井澤耕一、「経学史論述与日語翻訳の有關問題(1): 通過清・皮錫瑞《経学歴史》及劉師培《経学教科書》翻訳工作」、国際漢学翻訳家大会、2014.11.2、北京大学(中華人民共和国)
5. 橋本昭典、「経学史論述与日語翻訳の有關問題(2): 以『尚書』今古文言說為中心」、国際漢学翻訳家大会、2014.11.2、北京大学(中華人民共和国)

〔図書〕(計2件)

1. 吾妻重二、秋岡英行、白井順、橋本昭典、藤井倫明、汲古書院、『『朱子語類』訳注』第八十七 八十八 礼(二)』、2015、356頁
2. 吾妻重二、井澤耕一、洲脇武志、汲古書院、『『朱子語類』訳注』第八十四 八十六 礼(一)』、2014、351頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

井澤 耕一 (KOICHI IZAWA)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：00455908

(2)研究分担者

橋本 昭典
(AKINORI HASHIMOTO)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号：20379522